

市町村名	宮古島市
------	------

**平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	7	雇用促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部課名	観光商工局 商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2

**事業内容**  
本市の雇用促進に向けて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みを実施し、地域雇用の拡大を目指す。

**実施方法**  
直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	19,796				
	(b) 予算現額	19,796				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 前年度繰越額	—	1,979			
	A. 計 (b+d)	19,796	1,979			
	B. 執行済額	17,813	1,856			
	うち交付金充当額	14,250	1,485			
	次年度繰越額	1,979	0			
	執行率 (%) (B/A)	90.0%	93.8%			
予算の状況の説明	紡糸技術を共同研究開発予定であった紡績会社が民事再生法の適用を受け契約困難となり、新たな紡績会社との交渉を余儀なくされ、その調整に不測の日数を要したことから繰越事業となった。また、不用額に関しては、本事業は概算契約により実施しており、実績報告を受け完了検査による確定額となっている。当初計画した事業内容は実施しており、達成状況を鑑みても適正であったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		芋麻を活用した島シャツの研究開発	目標 ( 島シャツの研究開発 ) 実績 紡糸技術の確立・販路拡大	( )	( )
	目標 ( ) 実績	( )	( )	( )	( )
達成状況説明	島シャツの商品化に向け、紡糸技術の確立・販路の確保ができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	24年度	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
		芋麻を活用した島シャツの研究開発	目標 ( 島シャツの研究開発 ) 実績 紡糸技術の確立・販路拡大	( )	( )	( )
【参考指標】 芋麻を活用した「島シャツ」生産販売業者における販売数	目標	( )	( )	( )	( 100着 )	( 300着 )
	実績				243着	188着
【参考指標】 芋麻を活用した「島シャツ」生産販売業者での雇用の拡大(原材料生産部門・販売部門)	目標	( )	( )	( )	( 合計2人 )	( 合計3人 )
	実績				1人	2人
進捗状況説明	H27年度以降は、宮古島雇用創造協議会からノウハウを引き継いだ島内企業が「島シャツ」の生産・拡大に取り組んでおり、島内計3店舗にて販売を展開している。H28年度実績値として販売数188着、雇用の拡大2名となっており、目標は未達の状況となっている。要因としては、芋麻の生産数が落ち込んだことによる生産数の不安定差から来る、コストの増加による販売単価の高止まりが考えられる。大手衣料品店との販売提携に向けた交渉も行っているが、やはり販売単価の面で調整が不調となっている。今後の取り組みとしては、芋麻の安定生産への協力先を見つけ、コストダウンを図るとともに、さらなる周知徹底及び、提携先の拡大が必要となる。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成27年度は、公共事業等を活用し販売促進に取組み、目標値以上の販売を達成できた。平成28年度においては、市内3店舗販売に加えて、島内イベント会場内で販売を実施した。併せて、大手衣料品店等へ販売提携に向けても交渉を行ったが、提携には至らなかった。大口販路先の確保に繋がらず、目標数に届かなかった。</p> <p>販売提携に繋がらない理由としては、島シャツの価格高止まりと商品の安定供給ができないことがあげられる。</p> <p>その要因としては、原料である苧麻の生産者の高齢化や担い手不足による生産規模縮小と苧麻原料の加工工程及び紡績を島外へ委託していることが考えられる。</p>	<p>原料である苧麻の安定確保の取り組みとして、障害者施設や介護施設等に、植え付けから刈り取りまで原料生産工程の委託検討を行う必要がある。一定の原料の安定確保ができる環境が整い次第、島外へ委託している原料加工工程及び紡績工程等の島内移管を検討する。想定としては、加工等の工程に対応した機材を導入する。機材の導入資金調達のために、事前に各種補助金等の調査を行う。</p>

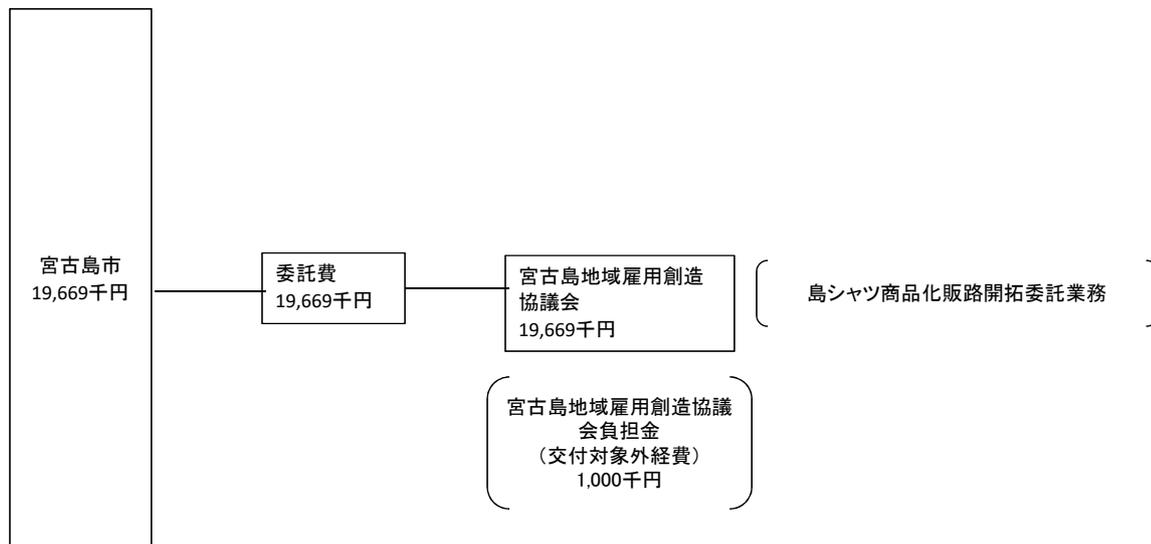
**今後の取り組み方針**

生産販売の障壁である高止まりを解決するために、加工・紡績工程を島内に移管する必要があるが、まずは安定した原料の確保が優先課題である。市内の障害者施設や介護施設に、原料生産工程の委託について、連携・提携に向けた調整を行う。想定する加工・紡績工程の機材導入に向けては、事前に資金調達の情報を収集する。

また、安定的な需要を生み出すために継続して市内店舗・イベント会場での販売と衣料品店等との販売提携に向けた交渉に取組み、加えWEB・SNSを活用したPRを実施し、島シャツの販売数増加及びこれに波及した雇用の拡大につなげていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
19,669	19,669	15,735	3,934	0



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○雇用創造協議会にて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みの為、ノウハウを熟知している事から、委託先は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○雇用促進に向けた公共性の高い事業であり受益者との負担関係は妥当であると考えます。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。

市町村名 宮古島市

平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名: 8 伝統工芸産業振興事業
沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所: 第3章-1-(5)-イ
担当部課名: 観光商工局商工物産交流課
事業実施(予定)年度: 平成24~28年度
沖縄振興基本方針該当箇所: III-3-(2)

事業内容: 本市の伝統工芸産業の振興に向けて、国の重要無形文化財に指定されている「宮古上布」の生産・保存・伝承を支援するため、織物事業協同組合に対し、補助金を交付する。

実施方法: 直接実施 委託 補助 負担 その他

Table with columns for years (24-28) and rows for budget status (a-d), execution amount, and execution rate. Includes a note: '予算の状況の説明 不用額もなく、当初計画していた事業内容は概ね実施した。'

Table for activity goals and achievement status. Columns: H24 activity goal, 24-28 years. Rows: ① New product development, ② Expansion of sales channels.

達成状況説明: ①新ブランド「かぎつむ」作成。②県外展示会への誘客のため、冊子・チラシ・案内ハガキの作成、大使館、出版社、染織関係へ送付、都内わしたショップ等でチラシの配布、新宿駅等へポスターの掲示、SNS、朝日新聞等への掲載。③販路拡大を目的に、都内において各関連団体と開催した展示会で、約150点の作品展示、素材展示、講演会・ワークショップの開催、アンケートの依頼。

Table for achievement goals and progress status. Columns: H24 achievement goal, 24-28 years, target value (28th year). Rows: ① New product development, ② Expansion of sales channels, Reference target for new products.

進捗状況説明: スカーフ、のれん、財布、名刺入れなどを県外イベント会場(工芸ふれあい広場、わしたショップ銀座宝蔵)と宮古島伝統工芸品センター内において、宮古上布と同じ材料、技術を用いた製品であることをPRをしながら展示販売を実施した。デザイン開発の委託業者との使用料については解決し、他のデザインを「かぎつむ」として開発することも可能となった。しかし、商品の退色課題については、研修会等を通して検証を行ったが解決に至っていない。平成27年度においては、本市における好調な観光産業に牽引され宮古島伝統工芸品センター等への観光客来場が増えたことが目標達成に繋がったと考えている。目標の未達成については、平成25年度は、販路先の検討調整、デザイン使用料等の調整による商品生産の出遅れ、平成26年度は、伝統工芸の技術を活用しているため、一般的な麻織物商品と比べての割高感の影響、平成28年度は、県外イベント一部未開催による販売機会の減少と退色の問題により、商品点数を増やせず、購入者の選択肢が制限されていること等が考えられる。

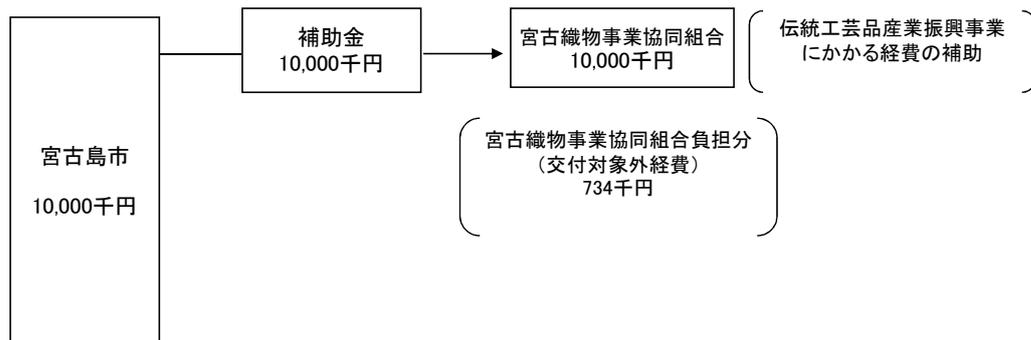
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>デザイン開発の委託業者との使用料については、事業の趣旨等粘り強く説明し、商品生産については折り合いが付き、商品開発環境が整理できた。</p> <p>小物類について、皮使用品の島内受託業者が以前より増え、商品生産がしやすい環境となり、販売の主力となっている。しかし、退色課題については、研修会を通しての対策の検証を行ったが根本的な解決策を見いだせず、特に衣類において商品化に繋がっていない。このことが商品点数増に影響し、商品が小物類に偏り目標達成に至らなかったと考える。</p> <p>また、継続して展示販売していた県外イベントにおいて、一部未開催のイベントがあったため、展示販売の機会が減少し、売上げにも影響した。</p>	<p>商品点数を増やすためには、退色課題の解決が鍵となる。継続して、染色職人による染色の材料・技法を検討を行う。併せて、宮古上布と同じ材料、技術を用いるために商品価格が高値傾向となるため、消費者が気軽に購入できるように安価な商品開発に努める。</p> <p>販路拡大については、既存島内外のイベントを活用するが、商品PR強化のため、当市において好調な観光産業と工芸産業との相乗効果を期待し、市内団体が実施する各種イベントへの参加に向けて調整をする。</p>

**今後の取り組み方針**

商品点数の増加に向けて、組合内の染色職人によるワーキンググループを設置し、退色の課題解決に取り組む。併せて、消費者が気軽に購入できるよう、商品に対する上布技術活用部分の割合を調整するなどしてコスト削減に努め、安価な商品の開発に繋げる。商品のPR強化として、観光地として注目されている当市において、活動機会が増えている観光協会と連携し、県内外で開催される観光イベント等に積極的に参加し、PRを実施する。また、宮古島市伝統工芸品センターホームページにおいても商品を掲載し、広く宣伝に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,734	10,000	8,000	2,000	734



資金の流 使途の流 れ、点 検、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○伝統工芸品振興を図るために、宮古織物事業協同組合の活動を支援することを目的としている為、補助金交付先は妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予定した事業は全て実施し、予算規模は適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業受託者も一定の費用を負担しており、費用負担関係も適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。